

# マクロ学会通信

2013年1月号(Vol.26No.255)

2013年も引き続き会員皆様の活発な研究活動、よろしく願い申し上げます。

事務局

## お知らせ

### ■ JAMES横浜合同研究会

1月24日に次の要領で合同研究会(未利用資源、水資源、マクロプロジェクト)を開催いたします。なお、本合同研究会は、JAMESの3研究会とRIMEPとの共催といたします。

(注: JAMES=日本マクロエンジニアリング学会、RIMEP=NPOマクロエンジニアリング研究機構)

1. 日 時: 2013年1月24日(木) 17:30-19:00
2. 場 所: 横浜ランドマークタワー25階・2512会議室(JR桜木町駅から徒歩と'動く歩道'で約7分)
3. テーマ:

#### (1) 地球環境情報等融合プログラムについて

話題提供: 角田晋也氏、本学会理事、(独)海洋研究開発機構 地球情報センター 調査役、RIMEP運営委員

#### (2) 乾燥・半乾燥地のアルカリ土壌改善について

話題提供: 木本研一氏、本学会理事、RIMEP副代表理事

### ■ 第6回経済工学研究会

下記の要領で経済工学研究会2012年度第6回研究会を開催いたします。皆様の参加をお待ちいたします。

1. 日 時: 2013年1月26日(土) 15:20-17:00
2. 場 所: 慶應義塾大学三田キャンパス南校舎3階萬來舎個室1  
(〒108-0073 東京都港区三田2丁目15-45 Tel 03-3453-5661)
3. テーマ: 「イスラム金融とアジア経済」(文部科学省挑戦的邦画研究採択研究)

研究報告(報告20分間+質疑10分間)

◆茂木 創(拓殖大学政経学部准教授)

『アジア諸国と中東産油国の経済依存度の深化-貿易指標を用いての試論』

◆木村 正信(金沢星稜大学経済学部准教授)

『金融サービス多様化(イスラム金融)を伴うマクロ動学モデルの構築に向けて』

◆立花 亨(拓殖大学政経学部教授)

『「利子禁止」の解釈可能性~イスラム教の特性から』

研究会終了後、17時30分より19時00分まで「つる

の屋」(港区芝5-14-15 B1F tel 03-3451-5052)にて懇親会を予定しております。

参加ご希望の方は、

日本マクロエンジニアリング学会事務局

〒112-8585 東京都文京区小日向 3-4-14

拓殖大学政経学部茂木研究室内 Tel/Fax 03-3947-9204

E-mail: hmotegi@ner.takushoku-u.ac.jp

まで、事前にご連絡ください。

### ■ 2012年度 第3回理事会

1. 日 時: 2013年2月9日(月) 10:00-11:00
2. 場 所: 東京大学本郷キャンパス山上会館(本郷キャンパス内) 201室

### ■ 第28回 日本マクロエンジニアリング学会(JAMES)年次研究大会

1. 日 時: 2013年2月9日(土) 11:00-17:00
2. 場 所: 東京大学本郷キャンパス山上会館(本郷キャンパス内) 201室・202室
3. 共 催: 文明システムズ・地球環境・プロジェクト研究会日本マクロエンジニアリング学会(JAMES)
4. 参加費: 会員2,000円; 一般6,000円(+懇親会:3,000円)

参加希望者は1月中に事務局宛、Eメールにてご連絡下さい。

#### 5. プログラム

今回の研究大会の中では、講演セッションに続き、参加者同士の交流を深め、創発を促すためのセッションも設けます。参加ご希望の方は事前に末尾の事務局までご連絡ください。

(1)開会挨拶 会長 新田義孝

最優秀論文賞表彰 11:00~11:10

(2)基調講演 マクロエンジニアリング学会顧問 藤田慶喜

「最近の日本企業の経営上の課題-国際活動から感じていること-」 11:10~12:10 (発表50分間+質疑応答10分間)

#### 【講演要旨】

世界は今大きく変動をしている。世界的経済変動に、最近の政治指導者の交代などが重なって重層的な変化が起きている。第二次大戦後の米国の指導的立場が弱まり、EUの統合の成果が発揮できずにいる。日本も頻繁な指導者交代を余儀なくされ、東日本災害と原発事故などによる産業力の低下のほか国際外交力の低下が見られる。更にこれまで元気であった中国、インド、ロシアなどBRICS諸国も教育度向上などによって、その市民社会全

体のまとまりを従来手法では得られない状況が生じてきている。Internet の発展によりもたらされたジャスミン革命も、宗教勢力と世俗勢力同士の期待から遠いのが現実である。

日本は地政学的に苦しい位置に存在する。西洋式民主主義まで成熟していない国、個人独裁色の強い国など、社会的政治的立場が異なるに国に地理的に接しているながら、日本自身は西欧民主主義を基盤としているだけにその接点での相違は大きい。その中で、円滑なる運営をしなければならぬ。

筆者は上述した国際経済的環境の中になって、資源に乏しい日本の産業が持続的に活動するには、上記 handicap を克服しながら、伝統的叡智を復活させ、国際社会に貢献する道を選ぶことしか生きる道は無いと信じている。又それが将来の国際社会において日本が先行モデルになるべき存在であり、その為には、日本人が他国市民以上に再び大きな挑戦と努力をしなければならない時代に入りつつあることを認識すべきである。

(3) 講演(発表 20 分間+質疑応答 10 分間)

茂木創(当学会理事長 拓殖大学政経学部准教授)  
木村正信(当学会理事 金沢星稜大学経済学部准教授)

立花亨(会員 拓殖大学政経学部教授/学科長)  
「イスラム金融を通じたアジア・中東産油国間における経済関係の変化と日本経済への影響」

12:10~12:40

安田八十五(当学会理事、関東学院大学)  
白永梅(関東学院大学)  
「レジ袋有料化政策による削減効果と構造変化の分析と評価(仮題)」

12:40~13:10

(4) 懇親会(地下会場 会議室 002) 13:10~14:00

(5) 講演(発表 20 分間+質疑応答 10 分間)

齋藤優子(東北大学大学院生)  
劉庭秀(当学会理事、東北大学)  
「小型家電リサイクル制度導入の妥当性分析  
-山形県酒田市における実態調査を事例として-」

14:00~14:30

劉庭秀(当学会理事、東北大学)  
齋藤優子(東北大学大学院生)  
「復興教育支援事業の意義と今後の課題について  
-宮城県石巻市の小学校を事例に-」

14:30~15:00

角田晋也(当学会理事)  
西村一(独立行政法人海洋研究開発機構)  
「地球環境情報統融合プログラム(DIAS-2):2017  
年実運用開始に向けた運用体制の設計」

15:00~15:30

(6) 講演(発表 20 分間+質疑応答 10 分間)

木本研一(当学会理事)  
北見辰男(当学会理事, RIMEP) 他

「乾燥・半乾燥地のアルカリ土壌改善」  
15:30~16:00

小島紀徳(会員 成蹊大学)  
横佩おさむ(成蹊大学大学院生)  
「CO2 固定を目的とした乾燥地での植林と表面流出モデル」

16:00~16:30

(7) 討論 (アンケート回収)  
16:30~16:50

「農業の位置づけは?」  
司会:角田 晋也

(8) 総括 角田晋也(優秀プレゼン賞発表)  
16:50~16:55

(9) 閉会挨拶 吉野文雄(当学会副会長)  
16:55~17:00

### ■ 日本学術会議より

\*\* 日本学術会議ニュース・メール \*\* No. 378 \*\*  
2013/1/11

◇ 日本学術会議 情報学委員会 第 6 回情報学シンポジウムプログラムのお知らせ

◇ 平成 24 年度地球温暖化対策技術開発成果発表会の開催(ご案内)【訂正のご連絡】

◇ 2013 年の Harvey 賞について(ご案内)

◇ 日本学術会議 情報学委員会 第 6 回情報学シンポジウムプログラムのお知らせ

日本学術会議情報学委員会では、過去 5 回にわたり、「情報学シンポジウム」を公開で催し、日本における情報分野のさらなる発展を期す議論をしてまいりました。第 6 回の情報学シンポジウムを次のような要領で開催いたしますのでご案内いたします。

テーマ: 日本がリードするビッグデータ新世紀

<http://www.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/scj/>

主催: 日本学術会議 情報学委員会

共催: 内閣府 最先端研究開発支援プログラム「超巨大データベース時代に向けた最高速データベースエンジンの開発と当該エンジンを核とする戦略的社会サービスの実証・評価」

後援: 情報処理学会(予定)、電子情報通信学会

日時: 平成 25 年 2 月 27 日(水) 13:00~17:30

場所: 日本学術会議 講堂

次の方々による招待講演およびパネル討論を予定しております(敬称略)。

招待講演

(1) 古川 一夫((独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)・理事長、  
情報処理学会・会長)

(2) Keith Marzullo(Director, Computer and Network Systems Division  
Computer and Information Science and Engi-

neering Directorate

US National Science Foundation)

(3) 武田 浩一(日本 IBM 東京基礎研究所・技術理事)

本シンポジウムテーマに関するパネル討論

司会:

喜連川 優(情報学委員会・副委員長)

パネリスト:

北川 源四郎(大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構・機構長)

古川 一夫(NEDO 理事長、情報処理学会・会長)

森本 典繁(日本 IBM 東京基礎研究所・所長)

米澤 明憲((独)理化学研究所計算科学研究機構・副機構長)

皆様には、本シンポジウムへのご参加の程を是非お願いいたしますとともに、関係なされている学協会、また、周りの方々へのお知らせの程を何卒宜しくお願い申し上げます。

本シンポジウムの参加費は無料ですが、下記に添付しております申し込みフォームにご記入の上、平成 25 年 2 月 22 日(金)までに参加申し込みをしていただきたくお願いいたします。

また、当初、本シンポジウム当日の午前 10 時~10 時 30 分に講堂において、情報学委員会および本委員会が設置する 9 分科会の全委員(会員・連携会員)による全体会議を開催する予定でしたが、日本学術会議財務危機対策への協力の観点から、急遽、開催を取り止めることにしましたことを謹んでお知らせ申し上げます。

情報学委員会

委員長 西尾 章治郎

\*\*\*\*\*

本件に関する問い合わせ先:

石田 亨(第 6 回情報学シンポジウム実行委員長、情報学委員会幹事)

E-mail: ishida@i.kyoto-u.ac.jp

参加申し込み先:

安達 淳(第 6 回情報学シンポジウム実行委員:国立情報学研究所)

E-mail: e-science-sec@nii.ac.jp

締切日:平成 25 年 2 月 22 日(金)

参加申し込みフォーム(送付先):

e-science-sec@nii.ac.jp

お名前:

ご所属:

E-MAIL:

連絡事項:

◇平成 24 年度地球温暖化対策技術開発成果発表会の開催(ご案内)【訂正のご連絡】

◆日時:平成 25 年 1 月 18 日(金)14:30~17:00  
(開場 14:00)

◆場所:椿山荘 11 階「マーガレット」(東京都文京区関口 2-10-8)

◆主催:環境省地球環境局地球温暖化対策課

◆開催趣旨:環境省では、エネルギー起源二酸化炭素排出量の削減を目指した

対策技術の開発・実証及び普及を推進するために、民間企業、公的研究機関、大学等からの提案を募集し、選定された優れた課題を実施して頂く「地球温暖化対策技術開発等事業(競争的資金)」を行っています。この度、下記要領で平成 22 年度に終了した事業の成果を、専門家だけではなく広く市民・国民の皆様を知って頂くために、「平成 24 年度地球温暖化対策技術開発成果発表会」を開催いたします。

◆発表内容(予定):

○業務用電動二輪車の実用化に向けた一般公道走行による実走実験

(本田技研工業株式会社)

○既存住宅の断熱性能向上のための薄型断熱内装建材に関する技術開発

(パナソニック電気株式会社)

○水素・燃料電池社会構築のための負荷対応型水素精製システムに関する技術開発

(株式会社神戸製鋼所)

◆参加無料

◆申込み:傍聴を御希望の方は電子メール

(ontai@airies.or.jp 宛て)にてお申し込みください。E-mail タイトルに「地球温暖化対策技術開発成果発表会傍聴希望」と明記ください。

[1]氏名、[2]勤務先、[3]電話番号、[4]E-mail

アドレスを記載ください。申し込み期限は平成 25 年 1 月 15 日(火)12:00 必着とさせていただきます。なお、希望者が定員(120 人)を超えた場合には、受付を締め切ることがありますので、お早めにお申し込み下さい。

◆傍聴登録先

地球温暖化対策技術開発成果発表会事務局

一般社団法人国際環境研究協会

担当:森本 亮子 工藤 和子

電話:03-5812-2105

e-mail:ontai@airies.or.jp

詳細については、以下の環境省報道発表資料を御覧ください。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16126>

◇2013 年の Harvey 賞について(ご案内)

2013 年の Harvey 賞について、推薦依頼がありましたためお知らせいたします。

会員・連携会員の皆様をご推薦できる賞ですので、同賞にふさわしいと考えられる研究者がいらっしゃいましたら、ご推薦をお願いします。

推薦要領につきましては、以下のホームページで

ご確認ください。

○Harvey 賞：イスラエルとその他の国々との間の親善を目的とし、国籍、人種、性別、年齢等を問わず、人類に対し比類のない貢献を及ぼした創造的研究を行った者に対して授与される賞。2013 年は「Science and Technology」において優れた業績をおさめた者を対象としている。授与組織は The Technion - Israel Institute of Technology (テクニオン-イスラエル工科大学)。

[HTTP://harveypz.net.technion.ac.il/](http://harveypz.net.technion.ac.il/)

発行・編集 日本マクロエンジニアリング学会事務局  
〒112-8585 東京都文京区小日向 3-4-14  
拓殖大学政経学部  
茂木研究室内  
Tel/Fax 03-3947-9204

E-mail: [hmotegi@ner.takushoku-u.ac.jp](mailto:hmotegi@ner.takushoku-u.ac.jp)

URL : <http://www.jame-society.jp/>

本通信の他への無断転載を禁じます。

信欄にその旨ご一筆いただけますと幸いです。